

平成30年度 決算 のお知らせ

7月16日(火)に開催されました第170回組合会において、平成30年度の決算が可決承認されましたのでその概要をお知らせします。

平成30年度決算のポイント

保険給付費の減少により黒字決算

決算概要

皆さんの毎月の給与や賞与から納めていただいた保険料収入は、被保険者数の減少等により前年度より減収の29億2,852万1千円となりました。

支出では、皆さんの医療費などに充てられる保険給付費は前年度より減少し12億1,154万3千円となりました。保険給付費は1人当たりで見るとやや増加しました。

高齢者医療を支えるために支出する納付金は平成29年度から再び増加傾向を示しており、平成30年度は13億6,315万円を拠出しました。

皆さんの健康増進を支援する保健事業費には2億2,353万4千円を支出し、疾病予防事業や健康相談事業、Smart Life Point制度の継続実施など、皆さんの健康を守るための諸事業を予定どおり実施しました。

平成30年度は、保険料収入の減少と納付金の増加を保険給付費の減少で補うかたちになりました。収支差引額で8億198万9千円の黒字、組合財政の健全性を示す経常収支差引額で見ると、7,590万9千円の黒字決算となりました。

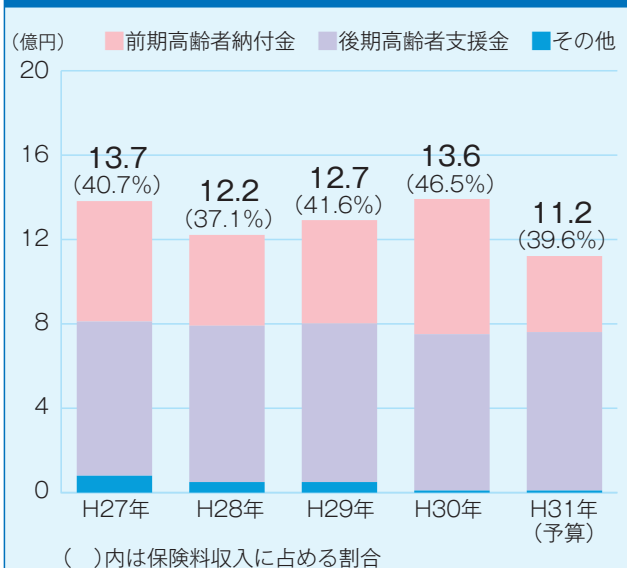
健康保険組合を取り巻く状況

健保組合の財政を圧迫している大きな要因は、高齢者医療費の多くを納付金として負担しているためで、その額は健保組合全体で3兆4,435億円（2019年度予算）。保険料に占める割合は42.4%と半分近くにのぼります。納付金負担は高齢化に伴い増え続けており、2022年以降は団塊の世代が後期高齢者（75歳以上）になり始めることから急増するとされており、医療保険制度の抜本的な改革を早急に行うことが喫緊の課題といえます。

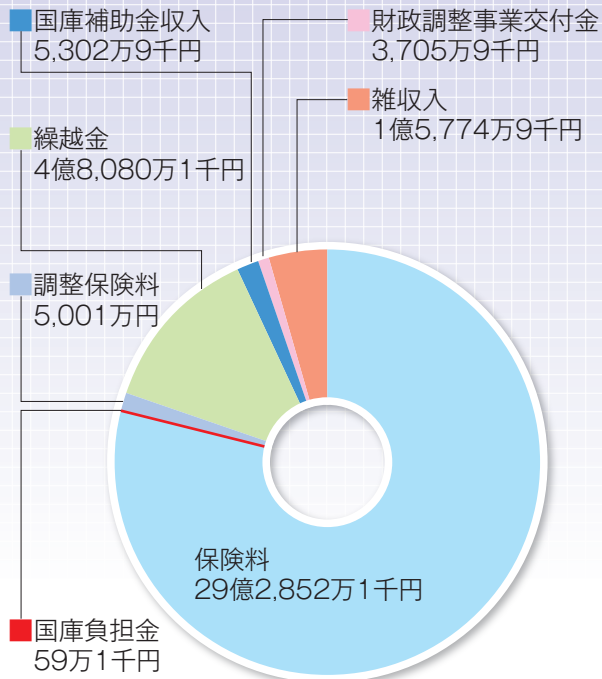
当組合においては平成29・30年度と納付金は増加してきましたが、平成31年度予算では減少すると試算されています。しかし保険給付費が増加に転じれば、再び赤字に陥ることも考えられます。

健康保険組合としましては、一層の効率化を図ると共に、皆さんの健康増進施策に力を注いでまいります。皆さんにおかれましては、各種検診などの保健事業を積極的に活用し、健康の維持・増進にお役立ていただきますようお願いいたします。

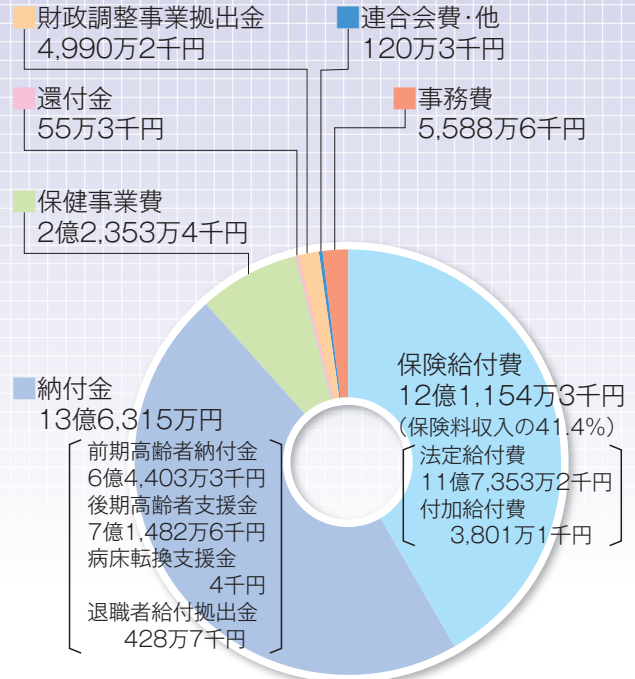
当健康保険組合の納付金の推移



収入合計 37億776万円



支出合計 29億577万1千円



平成30年度 決算額

収入合計	37億776万円
支出合計	29億577万1千円
収入支出差引額	8億198万9千円
経常収支差引額	7,590万9千円

健康 保険

決算基礎数値

被保険者数	4,081人 (男性 3,058人) (女性 1,023人)
平均年齢	43.97歳 (男性 44.73歳) (女性 41.70歳)
被扶養者数	5,442人
前期高齢者加入率	0.55535%
保険料率 (調整保険料率含む)	83.00/1000 (事業主 51.00/1000 被保険者 32.00/1000)

介護 保険

決算基礎数値

介護保険第2号 被保険者たる被保険者数	2,628人
介護保険料率	12.00/1000 (事業主6.00/1000 被保険者6.00/1000)

決算の概要

(単位:千円)

収入	科目	決算額
	介護保険料	319,661
	繰越金	21,156
	合計	340,817
支出	科目	決算額
	介護納付金	283,009
	介護保険料還付金	78
	合計	283,087